日機輸香港事務所情報

中国で最も貧しい省「貴州省」

2011.2.23

2011 年 2 月下旬、某ミッションに同行して貴州省を訪れる機会があった。以下、簡単に貴州省の最新状況を訪問した範囲でご紹介したい。

（1）貴州省概要

貴州省は中国西南部に位置する省で、周りを四川省、重慶市、湖南省、広東省、広西チワン族自治区、雲南省の 6 つの省に囲まれている。2009 年の GDP は 3,913 億元（595 億ドル）、人口（3,798 万人）で割った一人当たり GDP は 1,567 ドルと中国で最も貧しい省である。貴州省を紹介する有名な言葉、「天に三日の晴れなし、地に三里の平地なし、民に三分の銀もなし」が表しているように、気候が冷涼・多雨で耕作可能地が少なく、貧乏人が多い地域として中国中で認知されている地域である。

貴州省の経済がこのように昔から他の地域に比べて遅れてきた原因としては、何よりもその地形に原因があるだろう。同じ内陸とはいっても四川や陝西とは異なり、あちこち至る所に山があり、およそ広い土地というものがない。日本で言えば長野県や山梨県のような地形であり、耕作可能な平地が極端に少ないのである。また、省全体がカルスト地形のため土地がアルカリ性で痩せている。交通も不便で、最近になり高速道路が整備されるようになるまでは、山を越えて隣村に行くだけでも大変だったそうで、「ひと山越えると民族風習が異なり言葉が通じない」と言われるほどであった。地域内にはミャオ族、プイ族をはじめとして 48 もの少数民族が住んでおり、人口に占める少数民族の比率は 4 割近くにも達している。

このように山がちの狭い土地を有効に利用するため、農業は「耕して天に至る」形の棚田が中心であり、一人当たりの耕地面積も 1 ムー（670 平米）に満たず、機械化も遅れているため、今でも牛を使った耕作が見られる。山がちで多雨な気候という点は日本に共通するともいえ、文化風習（アニミズム）や食習慣等の面では日本に近い面もあるように感じられた。また、有名な産品としてはマオタイ酒がある。

今回、ミッション一行が表敬した貴州省政府の高官は、こうした貴州省について、以下のようにその特徴（注目点）を簡潔かつ明確に紹介してくれた。

① 気候がよい。

一年を通じて気温があまり変動せず、特に夏は涼しく、避暑地として適している。

② 生物資源が豊富である。

動植物資源は 6 千種類あり、医薬産業、特に漢方医薬産業にとって魅力的な種が豊富である。

③　エネルギー資源が豊富である。

山が多いため水力エネルギーが豊富であり、大量の電力を広東省に送っている。また、石炭資源の埋蔵量が豊富（採掘量の 1,000 年分に相当する 2,400 億トン）である。

④　鉱物資源が豊富である。

金属資源の種類は 128 種類に達し、うち 26 種類の金属の埋蔵量は中国一である。

⑤　製造業の基盤がある。

特に優位性のある工業としては大型機械、電子工業、衛星関連（電池？）である。特に電子工業では深センや大連で活躍している企業家の中にたくさんの貴州人がいる。

⑥　旅行産業が成長している。

旅行産業の規模は雲南省を超えており、香港・マカオ・台湾からの観光客に次いで日本からの観光客が多い。第 11 次 5 カ年計画期間中の旅行産業の成長率は 34.3%に達し、1 千億元以上の規模の産業となっている。地形・地質的に特徴のある地域が多いほか、多彩な少数民族文化が歓呼追う客を引き付けている。

⑦　労働力資源が豊富である。

労働力が豊富で賃金も安く、また西部開発地域であるため企業所得税が軽減されており、沿海部でコストが上昇した加工産業の受け皿になれる。（産業誘致上の課題であった交通インフラの整備も近年急速に進んでいる。）

なお、貴州省が第 12 次五カ年計画期間中に産業面で特に力を入れている分野としては、環境・省エネ産業（具体的には石炭ガスの回収）、農産品加工産業（茶の加工、オオサンショウウオを活用した化粧品開発等）、③旅行産業（ゴルフ場、高級リゾートホテル、温泉）、④一般製造業（沿海部の工場の移転の受け皿）があるようである。

←　省内最多部族ミャオ族の娘と民族衣装

（2）貴陽市

貴州省の省都貴陽市は人口 370 万人と中国にしては小規模であり、他の省都に比べると周りが山に囲まれていることもあり発展の余地が乏しい。しかし、最近、山を越えた西側に新都心を開発し、そこに市政府を移転させる等、積極的な市街地拡大を図っている。この新都心には現在マンションが林立しており、夜に通るとほとんど灯りがともっていない区画、いわゆる「鬼城」（お化け屋敷の意味）も目につくものの、昼間は人の行き来はそれなりに頻繁でバスも満員であり、将来の発展は期待できそうである。

タクシー運転手の話によれば市内の景気は「まずまず」で、一般商店の売り子でも毎月基本給 1,500 元、実質収入は 2,500～3,000 元と沿海部とさほど変わらない水準とのことであった。（実際はもう少し低いのではないかと思われるが。）中国の他の都市の例にもれず車が急増しており、特に貴陽市では地形上の制約もあって道路インフラの整備が追い付いていないため、市内各地で渋滞が頻発している。また、新築マンションの価格は平米当たり 5,000 元程度と北京・上海の 4 分の 1 以下である。町を歩く若者の服装は沿海部と比べて遜色ないものの、少数民族や高齢者の姿も比較的目につき、特に高齢者は籠を背負ってその中に買った品物や子供を入れて歩いている姿が印象的だった。

最近は経済発展に伴い、浙江省や福建省、広東省の商人の進出が目につき、特に浙江省の商人が市内に開いた商業施設「浙江商貿城」はにぎわっているようである。他には、市中心にマレーシア系のデパート Parkson、アメリカ系のスーパーWalmart 等の外資が進出していた。

↑　貴陽市都心部

↑　貴陽市西郊に建設された新都心のマンション群。

↑　道を行く人の姿はどこか田舎くさい

（３）新農村建設（オオサンショウウオの養殖）

貴州省では、貴陽の東約 1 時間半にあるプイ族の村を訪問した。このあたりは貴州省にしては珍しく盆地が広がっており、比較的豊かな地域のように見受けられた。

↑　村の概要と現役で活躍する牛。

説明によれば、この村の主な農作物は米やトウモロコシ、マメ類のほか菜種程度であり、農民生活向上のために農業収入以外の収入を確保するよう努めているとのことであった。具体的には、この村では清冽な湧き水を利用して高級広東料理の材料として根強い人気があるオオサンショウウオの養殖に力を入れており、現在の市価は 1 斤（500ｇ）当たり 1,200～1,600 元（約 1 万 5 千～2 万円）、一匹当たりだと概ね 1 万元（13 万円）程度にもなるようである。ただし、養殖には 3 年はかかるほか、養殖も技術的に難しく、現在の飼育規模はまだまだ小さい（数 10 匹程度）ようである。

↑　養殖されているオオサンショウウオ。

なお、筆者は誤解していたが、新農村建設というとイコール農村の不動産開発、特に古い農村をまるまる移転させてマンションに住まわせること（「農民上楼」）と理解していたが、実際には必ずしもそうではなく、むしろこのように農業以外の収入源を増やしたり、あるいは高付加価値の農産物を生産する等、農村生活の向上につながる取り組み一般を広く指す用語として用いられているようである。こうした地に足のついた取り組みとしては、この他にも特産のスモモの売り込みや、スモモを活用した農産加工品開発（スモモブランデー等）にも取り組んでおり、着実な成果を挙げているようであった。

（4）その他

今回、中国最貧の貴州省で農村を訪問したが、ミッション一行向けに豊かな農村が選ばれたという事情はあるとしても、貴州省全体の貧困人口は5年前の1300万人から500万人にまで減少しており、第12次五カ年計画期間中にはこれを0にまで減らすことが計画されている。農村部でも電気・水道が完備し、ゴミも少なくきれいに保たれており、観光の好調もあってか経済の底上げは進んでいる印象であった。インフレについても、農村部では都市部ほど物価は上昇していないようで、民生の改善は着実に進んでいると見受けられた。

貴州訪問期間中はちょうど日本で報道された「ジャスミン革命」関連の北京・上海等大都市でのデモが予告・実施された日に当たっていた。その状況については各種報道で知るのみだが、予告地点に参集したのは多くが海外の報道機関であり、参加した者はごくわずかであったようだ。チュニジア、エジプト、リビアの政変も、中国国内では確かに控えめではあるものの報道はされており、また、CNNをはじめとする海外報道はそのまま流されている。（特に株式市場や原油価格、為替レートの変動等の経済情報には中国人は敏感であり、その原因となるこうした産油地域における政治変動については報道抑制自体が困難という事情もあるものと思われる。）

民生が改善している中では、民衆の側も、様々な小規模な抗議行動はあるとしても、概ね共産党の一党支配に対して肯定的というのが率直な印象であり、共産党の側も、様々な腐敗・不正はあるものの、それらに対して一つ一つ対応する中で、正当性に対してむしろ自信を深めているように見受けられる。最近では反腐敗運動を強調するとともに、若者の不満の根源にある格差と就職難の問題にも着々と手をうちつつある。特に就職問題については、新卒の就職率が 75%程度と深刻であるものの、日本と異なり新卒偏重の採用ではなく「再チャレンジ」がしやすい点を踏まえておく必要があるだろう。報道によれば、来年度からは人気のある公務員については新卒は採用せず、最低 2 年程度の社会経験を持った者のみを採用する方針に転換するようであり、こうした雇用面での弾力性（転職のしやすさ）は中国社会の柔軟性を理解する上で押えておく必要がありそうである。上記北京・上海のデモでも、海外報道陣がカメラを没収される等の強硬姿勢がむしろなかった点こそを冷静に見るべきではないだろうか。

（以上）